

お父さん

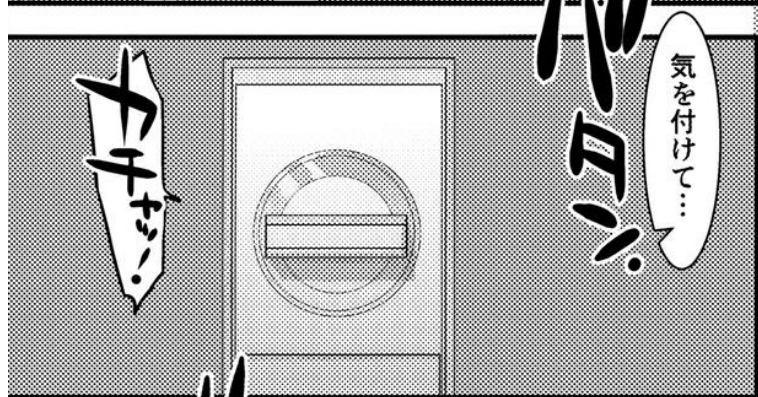
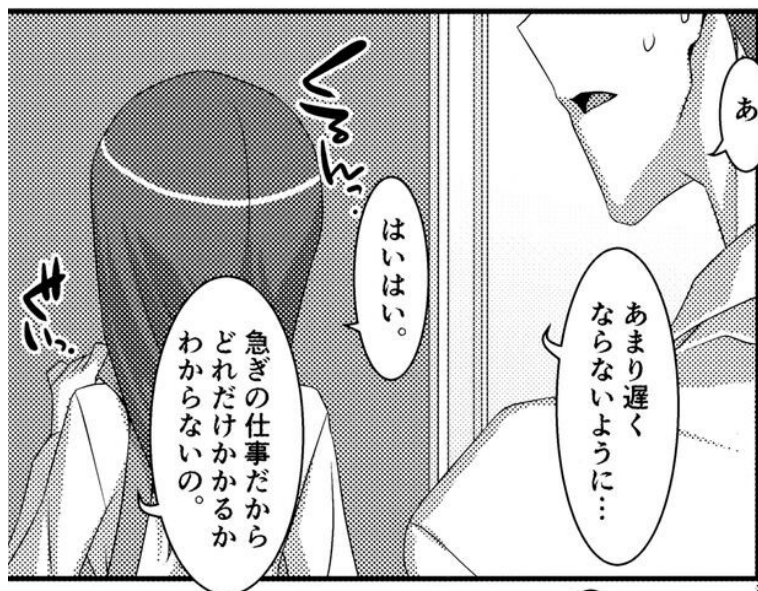
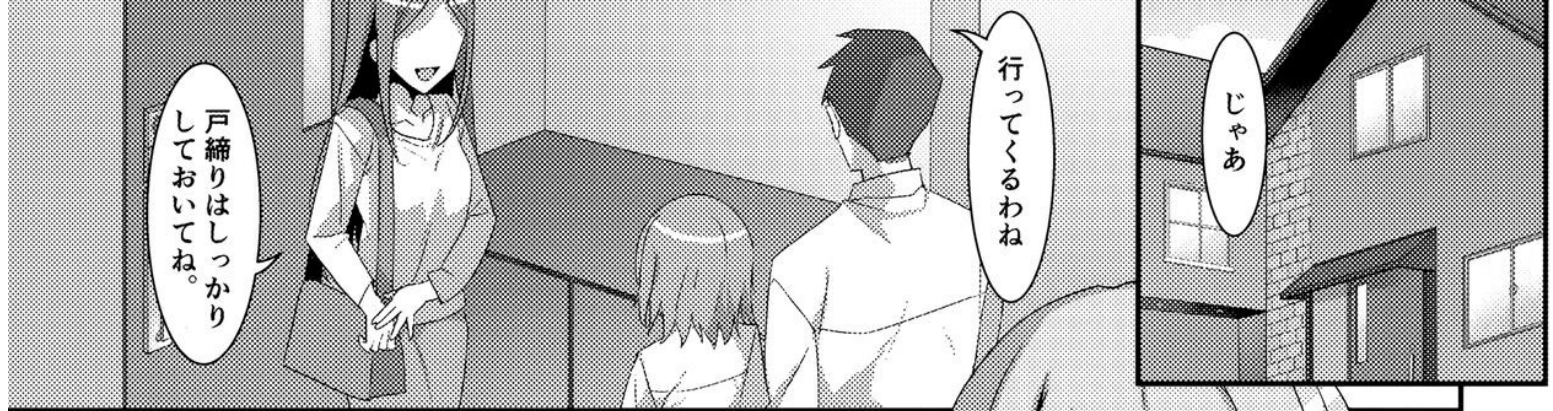
私の



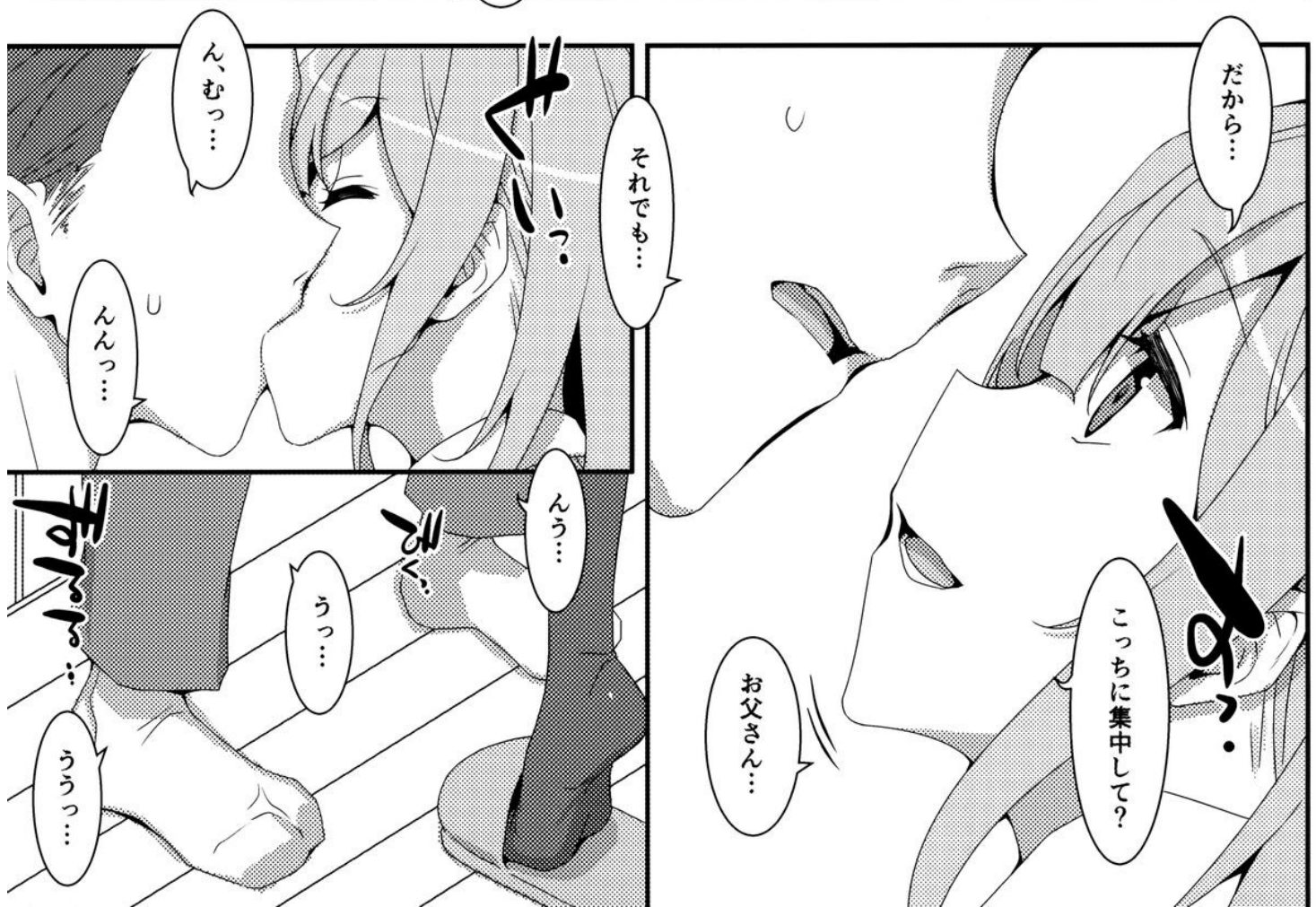
お
父
さ
ん

私
の









私は

小春。

おいで。

父の事が
好きだった。

子供の頃なら
よくある事。

うんっ♡

パパ大好きっ！

そう言われたし
自分でもそうだと
思っていた。

あ…おはよ…

だけど無くなるはず
だったそれは
残り続けて

おはよう小春。
それお父さんに
持って行って。

勝手に成長し
続けていった。

は、はい…
お父さん…

けれどそれを
言う訳にはいかない

うん。
有難う小春。

あッ…

あ、ごめん…

あ…だ、
大丈夫だから…

だって—

父は母の事を

そういうの
嫌がる時期
なんだから。

そうだな
気を付けるよ

愛しているから。

私を見る時と違う
『好きな人を見る目』

ごめんな。

小春。

また3人で
旅行に行こうか。

次も

お母さんの
行きたい場所が
いいかな。

その人を
好きなら

その人の幸せを
壊してはいけない。

今の状況を
維持する為に。

何よりも大切な
人の為に。

この気持ちは
死ぬまで自分の心に
閉じ込めておこう

…うん。

楽しみ。

そう決めていた。

だって

あの人が帰って
来ちゃうのが心配
なんですよ？

ここなら鍵を
かけてても
おかしくないし。

お父さんも
安心してHに
集中できるよ？

それ、は…

半分嘘。

うあつ！

あつ！

うっ…！

うっ…

好きな男を自分の
『巣』に誘い込む事に
達成感を感じてる。

ずっと想い続けた
存在という事も

小春っ…！

これ、以上はっ…

ダメだっ…

出っ…

自分の身体で満足
させる達成感も。

離、しっ…！

母から父を奪っている
という感覚も

小春っ…

こんな…事…

手を出してはいけない
存在だという事も





…また、セックス。

♡♡♡

時間は全然あるし大丈夫だよ。

♡♡♡

しちゃお…♡

それは…

この前は俺も…
どうかして…

♡♡♡

いいよね？

♡♡♡

お父さん…♡

まだ帰って来ないから。

や…やっぱり

これ以上はっ…

だ…ダメだ…

私の為になら
いいでしょ…？

ね…？

お願い…♡

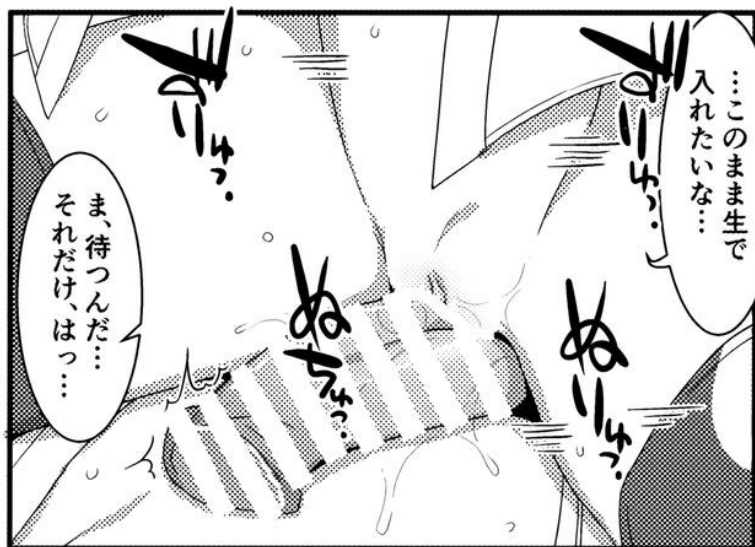
小春っ…



本当に…
仕事、でっ…

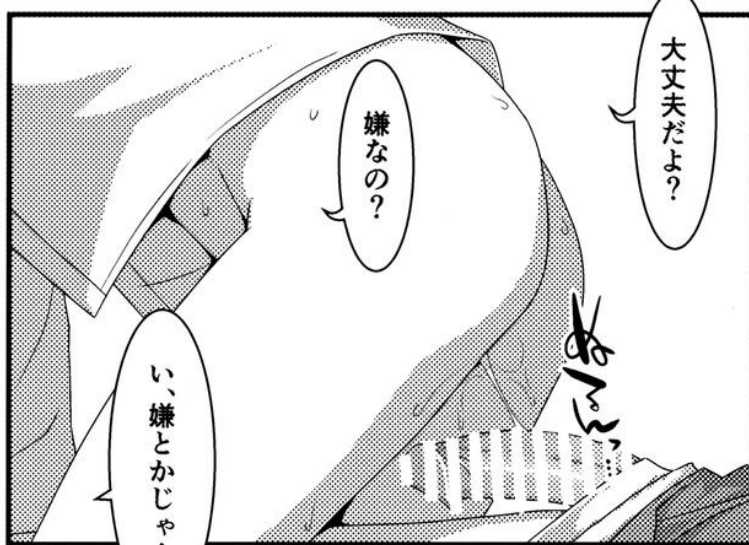
すぐっ…

帰って来るかも…
しれないからっ…!



…このまま生で
入りたいな…

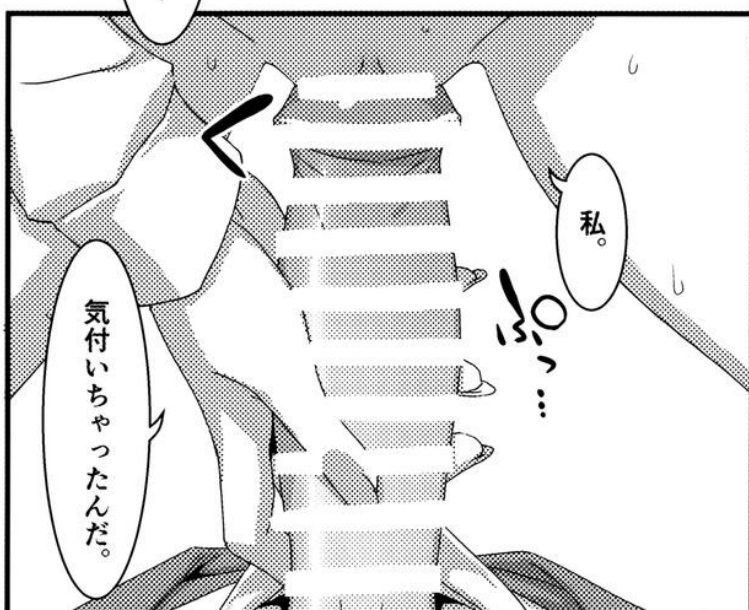
ま、待つんだ…
それだけ、はっ…



大丈夫だよ?

嫌なの?

い、嫌とかじゃ…



私。

気付いちゃったんだ。



…まだ

あの人の事
信じてるんだ?

あんなに証拠が
あるのに?

まだっ…本人の口
から聞いて、ない…

お父さんを本気で
好きになった日に。

本気で好きになって。
心から愛しくなって。

だから初めて
気付いたの。

『女の勘』なのかな？
私と違うって。

あの人の顔は。
目は。

あれ？って
思った。

一度でも愛した人に
向ける物じゃないって。

う、あっ…

あ、この人。

お父さんを
愛していないんだ、って。

解っちゃった。

でも最初はそれを
信じたくなくて。

否定できる事を
探し回って。

一番確実な方法も
試してみたの。

…お父さんにも協力
して貰ったでしょ？



でも。

解ったのはこれ。

ほら。

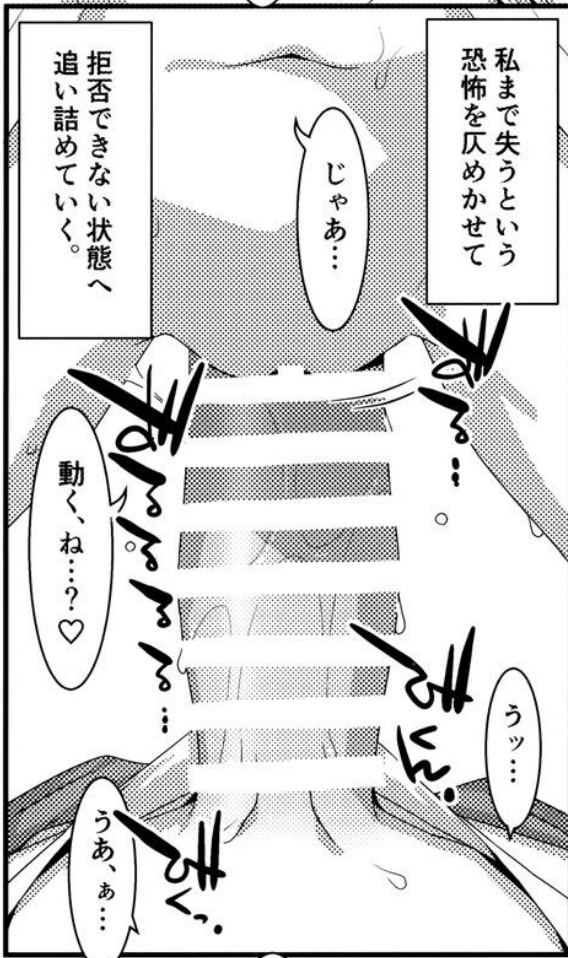
私はお父さんの
子供じゃないの。

だから——
大丈夫なの。



うっ…

うううう…



私まで失うという
恐怖を仄めかせて

じゃあ…

拒否できない状態へ
追い詰めていく。

動く、ね…？♡

うっ…

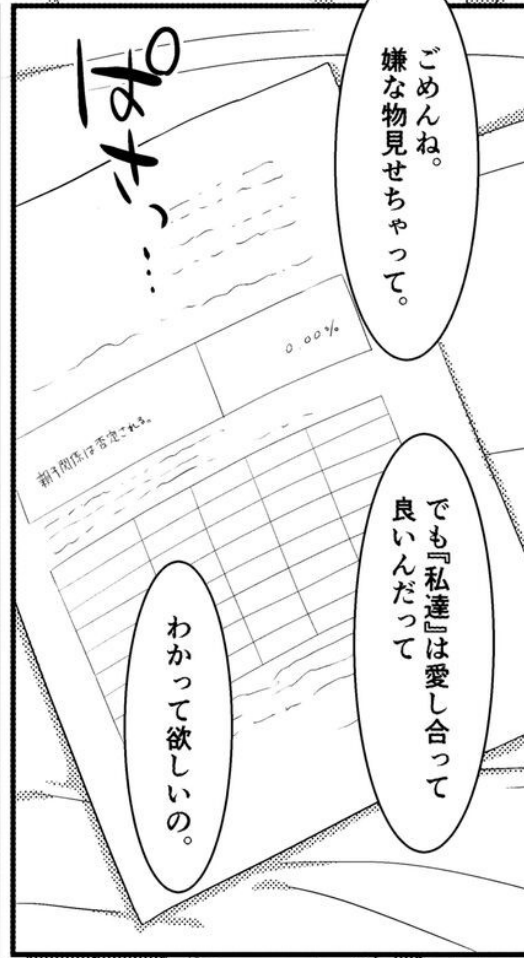
うあ、あ…



裏切りの激痛、傷跡と
孤独への恐怖を抱える
父の心を撫でながら

うっ…

あ…



ごめんね。
嫌な物見せちゃって。

でも『私達』は愛し合って
良いんだって

わかって欲しいの。

大切に育んできた
色々なものが全て
無くなってしまう

その恐怖に
動けなくなっている

小春…

小春…

父の心を。





弱ってなければ
付け込めなかった
隙に入り込んで行く。

お父さんっ♡

お父さんっ♡

好きっ♡

好きっ♡

大好きっ♡

二度と戻る事が
出来なくなるように。



あっ♡

あっ♡

んっ♡

あんっ♡



好きッ♡

好きッ♡

好きっ♡

好きっ♡

好きっ♡

好きっ♡

ああっ

あぐっ

あっ

うっ



自信を失い自己嫌悪に
陥った心を捕まえ

お父さんから...

私を愛して欲しい。

あ...う...

ね...?♡

お願い...♡

誘い込む。



あんっ♡

気持ちいいよっ♡

お父さんっ♡

もっ♡

してっ♡



お父さんはっ♡

私に何をして
欲しいっ…♡

教えてっ…♡



小春っ…

俺からっ…

離れないで
くれっ…



うんっ♡

ずっと一緒に
いよう…♡

お父さんっ…♡



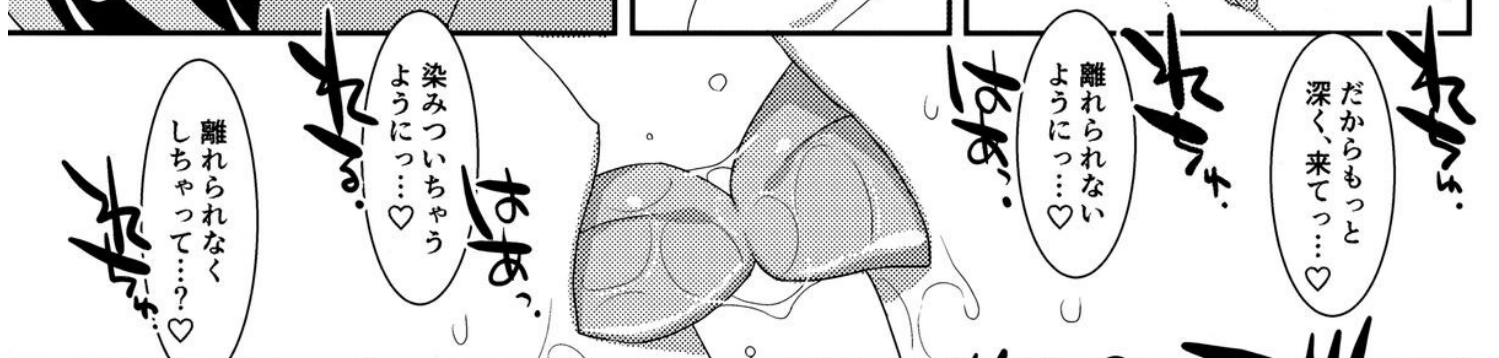
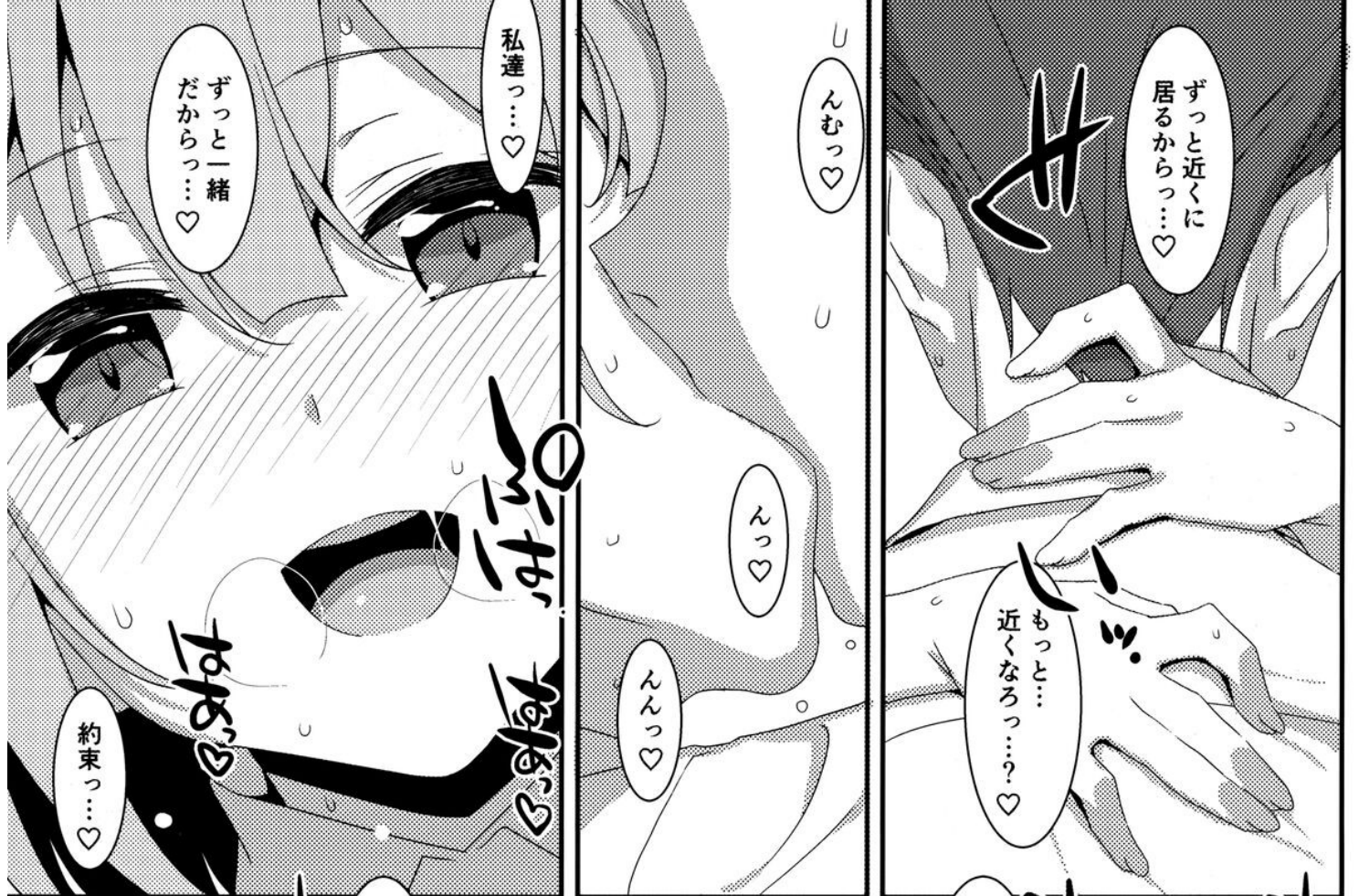
私がっ♡

お父さんっ♡

ずっと♡

居るからっ♡

ねっ♡



捕まえててっ♡

あっ♡

離さないでっ♡

んんっ♡

ずっと一緒だって♡

あんっ♡

約束してっ♡

あっ♡

お父さんっ♡

あっ♡

お父さんっ♡

おとうさんっ♡

おとうさんっ♡

来…ちやう♡

あっ♡

来ちやうっ♡

来っ…♡

♡…♡…♡



普段優しい
好きな人が

んあっ…♡

や、あっ…♡

離れちゃ…
ダメえ…♡

大切な物を
失う恐怖から

私を乱暴に、
強く求める。

まだ…
出来るよね…？

もっとして…♡

お父さんっ…♡

女の幸せに。
頭が痺れる。



小春...

もっ...

出そう...だっ...

父の心が揺れている。

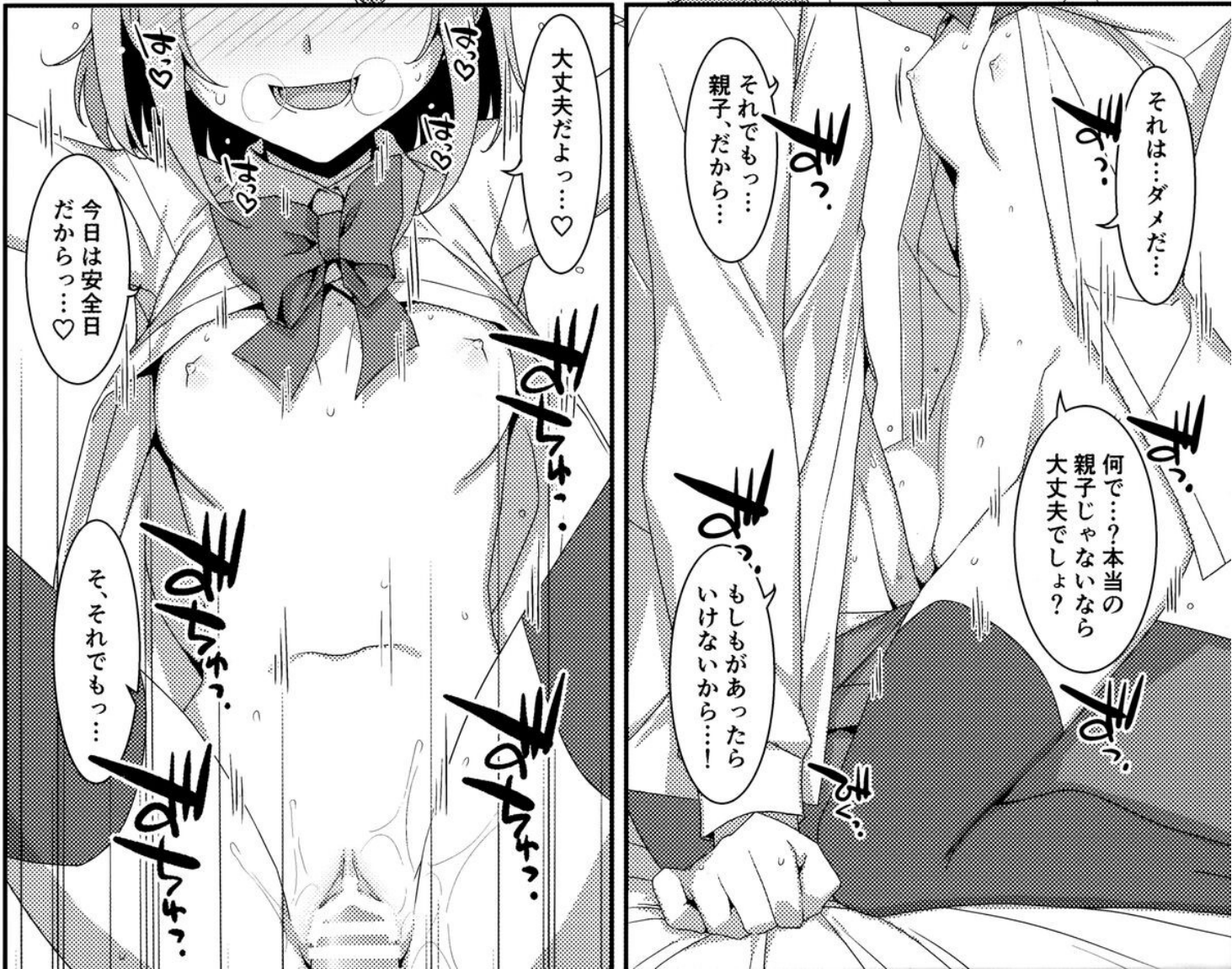


最愛の人の裏切りに
寄る辺を無くした父の心

...このまま出して
いいよ...♡

...え？

寂しく漂い不安と
悲しみに暮れるその心に
手を差し伸べる



それは...ダメだ...

何で...？本当の
親子じゃないなら
大丈夫でしょ？

それでもっ...
親子、だから...

もしもがあつたら
いけないから...!!

大丈夫だよ...♡

今日は安全日
だからっ...♡

そ、それでもっ...

今、父が一番欲しい『信頼』を

じゃあ。

こう考えて。

私は裏切らないって証明させて。

…え？

目の前に餌の
ように釣り下げる。

もしもがあっても構わない。

簡単な気持ちじゃない事。

ねっ…？

言葉だけの抵抗。

小春っ…！

でもっ…！

俺はっ…！

残った『父親の誇り』

お前のっ…

そこまで差し出せたら

お父さんだって信じられるでしょ？

いいよねっ…？

それを
一突きごとに

小春っ…！

小春っ…！

離れっ…！

あっ…

削り取る

出るっ…！



あつ……！

チン……

あああつ……！

こんなつ……

違っ……

小春っ……
違うんだっ……



だめっ…だっ…

小春っ…

離れっ…

ううっ…

離れてっ…
くれっ…!!

ああっ…



父の心に沸いている
であろう罪悪感を

気持ちいい…♡

幸せ…♡

ありがと…
お父さん…♡

半分受け取る
ように言う。



全部っ…♡

罪の意識を薄めて

出してっ…♡

私の為だと思わせて

いいよっ…♡

立場を共有する
仲間なんだと—

あっ…

急速に冷めて生まれる
罪悪感と倫理観に
先回りするように

あは…♡

全部…
貰っちゃった…♡

甘く優しい言葉で
同時に生まれている
寂しさに訴えかける。

逃げる事のできない
『共犯』なんだと
思わせるように。

あああ…

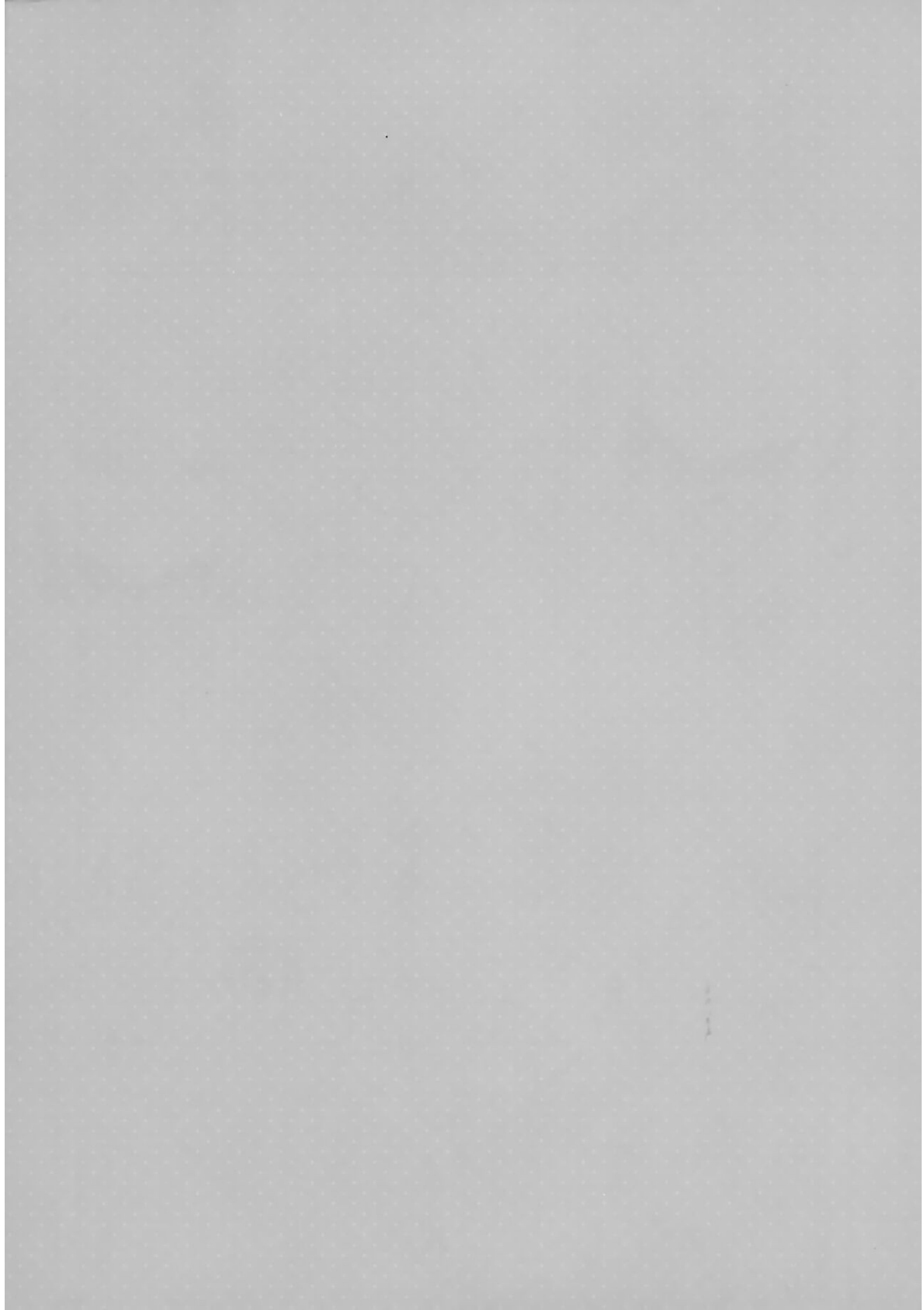
一度の過ちを

お父さん…
大好き…♡

ずっと…
一緒に居ようね…?

永久のものに
する為に





熱っ…

少し勿体
ないかな…

お父さんとの
繋がり証拠…

でもこっちが
見つかったら

辿り着けないと
諦めた道が一瞬
通ってしまった時

父親と判定できる。

父権肯定確
99.9%

迷わず飛び込んだ
自分に驚いた

『繋がりが無い証拠』
なら簡単に
作れちゃうのね。

一度、してしまえば。

大変だもんね…

…私を信じてくれてる
からだろうけど…

罪悪感も。

忌避感も。

ごめんね、
お父さん。

でもずっと一緒に
居る為だから…

倫理観も。

許してね…

崩れ易くなる。

例え本当は繋がって
いない道でさえも—

一度通ってしまったら
後は簡単に—

私の、お父さん

2021. 12. 31

Printed by 西村謄写堂

TIES/タケイオーキ

<http://ties-to.sakura.ne.jp>

takei@ties-to.sakura.ne.jp

■本書の無断転載、複製、アップロード等の行為はお断りします
18歳未満の所持・閲覧もご遠慮願います

お私の 父さん



2021 Winter Presented by TIES